

# 経営比較分析表（令和2年度決算）

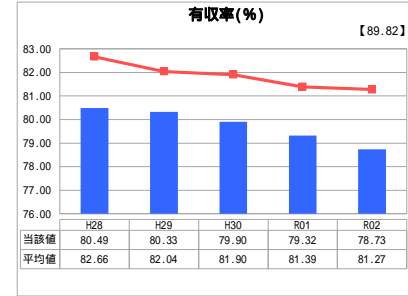
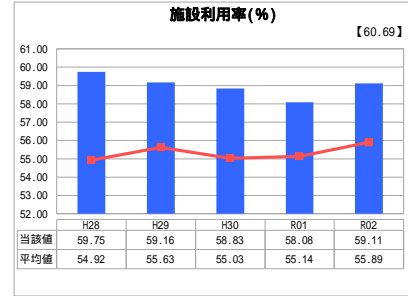
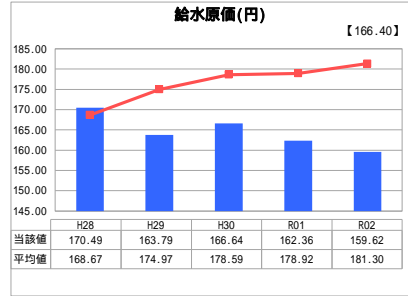
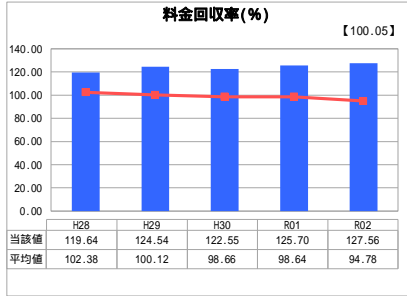
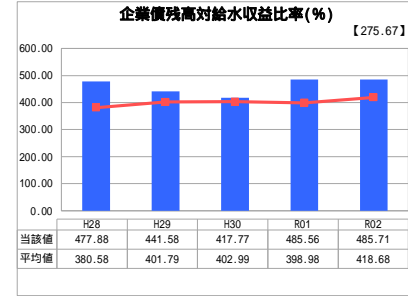
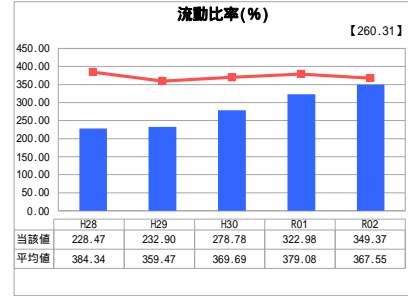
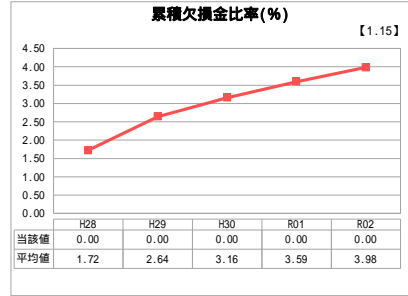
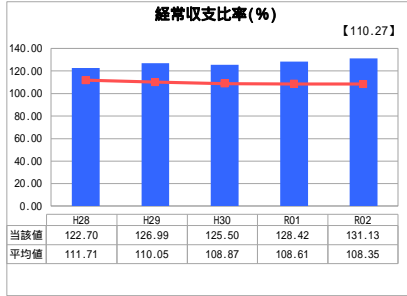
佐賀県 鹿島市

業種名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	67.94	87.48	3,960	

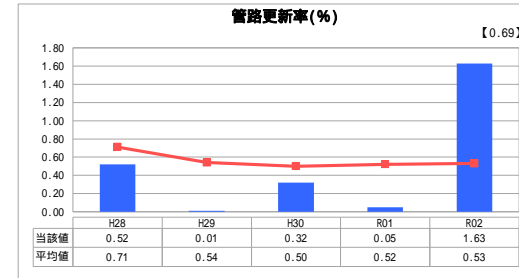
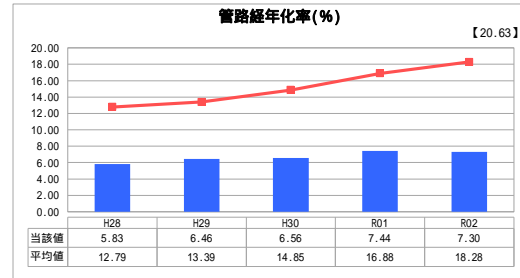
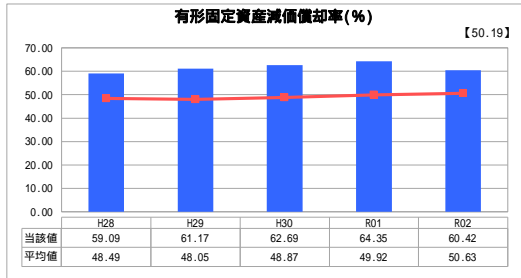
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
28,606	112.12	255.14
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
24,840	28.23	879.91

グラフ凡例
当該団体値(当該値)
類似団体平均値(平均値)
【】 令和2年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率について、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛に伴い家庭での需要が増えたため、給水収益が増加したことや減価償却費、支払利息の減少等により前年度より高くなった。  
 流動比率は、企業債償還が年々減少していることに伴い改善されつつあり、平均値との差が縮まった。  
 給水収益に対する企業債残高は、新規の配水池築造事業を令和5年度まで計画しているため、今後も高い水準で推移すると見込まれる。  
 減価償却費や支払利息等の経常経費の減少により、給水原価は低下しており、料金回収率は類似団体と比較して高く、前年度よりも上昇している。  
 施設利用率は、家庭での需要が増え、一日の平均配水量が増加したため、前年度より上昇した。  
 有収率は、昨年より下回っており、引き続き給水エリアの漏水調査を実施し改善に努める。

### 2. 老朽化の状況について

耐用年数を超える管路の増加が見込まれているため、有形固定資産減価償却率が平均より高い傾向にある。  
 新しい配水池築造事業等の大型事業を実施したことや布設替等により管路の更新が進んだため、管路経年化率は昨年度より低下し、管路更新率は上昇した。  
 今後は、中長期財政計画を基に効率的な管路の更新を図る必要がある。

### 全体総括

経常収支は、給水収益の増加等により、昨年度と比較して上昇しており、黒字が続いている。  
 しかし、今後の課題として、管路を含む水道施設の老朽化が進み、更新や耐震化に多くの費用が必要となるため、中長期財政計画に基づき、水道施設の計画的更新と安定した給水体制の確保に努める。